様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書

令和7年6月1日

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち 理学療 法士又 は作業 療法士 数	助手			
保健衛生学 部学部リハ ビリテーシ ョン学科理 学療法学専 攻	3人	4人	0人	4人	11人	6人	9人	1人	17人	17.45人	
計	3人	4人	0人	4人	11人	6人	9人	1人	17人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授で きる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の 知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が担当している。	3

	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

区 分	授業科目	担 当 コ マ 数	担当教員										
			氏名										職名 (専任・兼任・非常勤)
基礎分野 医療人底力教育 医療人の基礎知識	いのちの倫理学	8	福 田 八 寿 絵	豊 田 長 康	鎮 西 康 雄	鈴 木 宏 治							兼任
	医学の基礎入門	8	堤 智 斉	有 馬 寧	栃 谷 史 郎	熊 取 厚 志	赤 塚 結 子	丸 山 一 男	西 田 圭 吾				兼任
	医療・福祉の変遷と制度	8	河 尻 純 平	小 川 眞 里 子	及 川 伸 二	松 浦 信	山 路 由 実 子	藤 原 芳 朗					兼任
	医療の倫理学	8	福 田 八 寿	中 井	片 山	佐 々	渡 部 秀 樹	大 西					兼任

			ンス)										
			医療人底力 実践Ⅳ（他 学科連携プ ログラム）	8	堀 浩樹	浅 田啓 嗣	河 尻純 平						専任・ 兼任
多職種 連携教育	多職種連携 の基礎	1 5	吉子 健一	森 下芳 孝	松 浦佳 苗	吉 村智 春	畠中 泰彦	美 和千 尋	合 田盛 人	中 西健 二	鈴 木聡	専任・ 兼任	
			神藏 貴久	最 明裕 介	内 藤道 夫	八 重徹 司	中井 智子	中井 桂司					
	事例で学ぶ 多職種連携	1 5	川合 真子	吉子 健一	野 口佑 太	堀 浩樹	野 田孝 浩	吉 村智 春	伊 藤卓 也	齊 藤晋 治	奥 山滋 樹	専任・ 兼任	
			王 桂鳳	久 保田 千景	内 藤道 夫	八 重徹 司	蓑田 さゆ り	福 田八 寿絵	河 尻純 平				
	実践で学ぶ 多職種連携	1 5	野口 佑太	吉子 健一	堀 浩樹	野 田孝 浩	吉 村智 春	伊 藤卓 也	齊 藤晋 治	奥 山滋 樹	王 桂鳳	専任・ 兼任	
			久保 田千 景	川合 真子	内 藤道 夫	八 重徹 司	中井 智子	福 田八 寿絵	河 尻純 平	荒 井信 行	大 杉領 子		
熊取 厚志			多 田智 美	藤 原芳 朗	鈴 木聡	富 田泰 成	山 田康 晴	山 下幸 司	平 井一 行	中 村美 起			
	慢性疼痛で	1	鈴木 丸	丸 山	山 畠	丸 山	大 伊	伊 上	伊 上	伊	専任・		

			学ぶチーム医療 (基礎)	5	聡	山淳子	口太美雄	中泰彦	一男	井一弥	藤薫	條史絵	藤和寛	兼任	
					平井一行	藤原芳朗									
			慢性疼痛で学ぶチーム医療 (実践)	15	荒井信行	丸山淳子	高木久代	山口太美雄	棚橋伸行	浅田啓嗣	丸山一男	三輪高市	伊藤薫	専任・兼任	
					古屋かな恵	鈴木聡	谷出早由美	丸山幸恵	山路由実子	伊藤和寛	齋藤恒一	石川真太郎	上條史絵		
					平谷智生	長岡伸征	富田泰成	平井一行	牛場かおり	宮田瑠里子					
			医療人の教養と常識	医学医療最近の進歩	8	三浦英和	大井一弥	伊原正	米田操	界外忠之	笹井宣昌	丸山一男			専任・兼任
				食と健康	8	三浦俊宏	奥田政行	吉村智春	大杉領子	大槻誠	村林新吾	古屋かな恵	中原さおり		兼任・非常勤
				医療における安全と安心	8	大無田孝夫	堀浩樹	山下剛範	榎屋友幸	倉田節子	西川祐策	蜂須賀大			専任・兼任

										輔			
		東洋医学と 統合医療	8	山本 晃久									兼任
		地域包括ケ アと多職種 連携	8	國分 真佐 代	藤 原 芳 朗	三 輪 高 市	伊 藤 卓 也						兼任
		薬の役割・ 薬のできる まで	8	原田 均	田 口 博 明	米 田 誠 治	榎 屋 友 幸	二 村 昭 彦					兼任
		情報時代と 医療	8	鶴岡 信治									兼任
		医療とコミ ュニケーシ ョン	8	上原 俊介									兼任
人間と生活	人間と文化と社会	グローバル ヘルスと日 本	8	太田 伸生									兼任
		心と医療	8	鈴木 智裕									非常勤
		法と医療	8	田中 亜紀 子									非常勤
		経済と医療	8	伊藤 公昭									非常勤
		社会保障と 医療	8	新家 幸夫									非常勤
		社会と病	8	林原 玲洋									非常勤
		国際理解	8	堀 浩樹	高 木 久 代	太 田 伸 生	王 桂 鳳	マイ ケル ス キ ヤ リ ン					

			嗣	太								
発達障害系 理学療法学	8	多田 智美										専任
発達障害系 理学療法学 実習	2 3	多田 智美										専任
内部障害理 学療法学	1 5	伊藤 卓也										専任
内部障害理 学療法学実 習	2 3	伊藤 卓也										専任
生活技術学	1 5	齋藤 恒一	伊藤 和寛									専任
生活技術学 実習	2 3	齋藤 恒一	伊藤 和寛									専任
義肢装具学	1 5	畠中 泰彦										専任
義肢装具学 実習	2 3	畠中 泰彦										専任
理学療法特 論	1 5	浅田 啓嗣	畠中 泰彦	中俣 孝昭	笹井 宣昌	多田 智美	齋藤 恒一	伊藤 和寛	伊藤 卓也	栗原 健太		専任
理学療法特 論	1 5	吉田 李沙										非常勤
スポーツ医 学	1 5	畠中 泰彦	山門 徹									専任・ 非常勤
理学療法技 術論演習	1 5	浅田 啓嗣	齋藤 恒一	伊藤 和寛	栗原 健太							専任

		ロボットリハビリテーション演習	8	畠中泰彦									専任
管理学	理学療法 地域理学療法	理学療法管理理学	15	伊藤和寛									専任
		生活環境学	15	伊藤和寛									専任
		老年期障害学演習	15	東川正宗									兼任
		地域理学療法学	15	齋藤恒一	浅田啓嗣								専任
臨床実習		初期臨床実習	90	浅田啓嗣	畠中泰彦	笹井宣昌	齋藤恒一	伊藤和寛	中俣孝昭	多田智美	伊藤卓也	栗原健太	専任
		臨床評価実習	135	浅田啓嗣	畠中泰彦	笹井宣昌	多田智美	中俣孝昭	齋藤恒一	伊藤和寛	伊藤卓也	栗原健太	専任
		総合臨床実習	675	浅田啓嗣	畠中泰彦	笹井宣昌	中俣孝昭	齋藤恒一	多田智美	伊藤和寛	伊藤卓也	栗原健太	専任
卒業研究		卒業研究の基礎	15	浅田啓嗣	畠中泰彦	笹井宣昌	齋藤恒一	伊藤和寛	中俣孝昭	多田智美	伊藤卓也	栗原健太	専任
		卒業研究	23	浅田啓嗣	畠中泰彦	中俣孝昭	笹井宣昌	齋藤恒一	多田智美	伊藤和寛	伊藤卓也		専任

【自己評価 2-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
------	------	----

○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
○	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
初期臨床実習 見学実習および通所リハビリテーション の見学	2年後期	リハビリテーション概論	1年後期
		リハビリテーション医	

		学	
		整形外科学総論	2年前期
		神経内科学総論	
		運動療法学総論	
		地域理学療法学	3年後期
臨床評価実習 臨床実習指導者の指導・監視の下、様々な疾患・状態の対象者の対して学内で学んだ技術を用いて検査・測定等を実施し、理学療法評価についてまとめ、評価結果から問題点抽出、目標設定および治療プログラムの立案までの過程を学ぶ	3年前期	運動器系評価学	2年前期
		神経系評価学	2年前期
		理学療法評価学実習	2年後期
		生活技術学	2年後期
		臨床評価法実習	3年前期
総合臨床実習 臨床評価実習で学んだ問題点の抽出をもとに、目標設定、治療プログラムの立案および実施までの一貫した流れを学ぶ。さらに、目標設定や治療プログラムの立案をもとに治療を実施して対象者の反応や変化を的確に把握し再評価することを学ぶ。	4年前期	物理療法学	2年後期
		物理療法学実習	3年前期
		運動療法学総論	2年前期
		運動器系理学療法学	3年前期
		運動器系理学療法学実習	3年後期
		脊髄損傷理学療法学	2年後期
		脳血管障害理学療法学	3年前期
		脳血管障害理学療法学実習	3年後期
		神経筋疾患理学療法学実習	3年前期
		発達障害系理学療法学	2年後期
		発達障害系理学療法学実習	3年前期
		内部障害理学療法学	2年後期
		内部障害理学療法学実習	3年後期
		生活技術学実習	3年前期
		義肢装具学	2年後期
		義肢装具学実習	3年前期

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
------	------	----

	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	鈴鹿医療科学大学自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	学長
組織の開催頻度	年2回
組織の取り組み内容	・ 自己点検・評価の実施項目、実施内容及び実施に関すること
	・ 中期計画及び活動計画の策定等に関すること
	・ 自己点検・評価の実施及びその結果の公表に関すること
	・ 自己点検・評価の結果に基づく改善策に関すること
	・ その他自己点検・評価に関して必要な事項に関すること

自己点検・評価結果の公表	HPで公表 (URL : https://www.suzuka-u.ac.jp/guide/public/jikohyoka)
--------------	---

【自己評価 4-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教育の質保証委員会
	委員構成等	学科長もしくは専攻長（委員長）、教務担当委員、資格試験担当委員、FD推進委員、IR担当委員、LMS担当委員、その他委員長が必要と認めたもの
	改善の仕組みの実際	<p>・年に6回以上開催している。</p> <p>(1) 学科の4つのポリシーの確認 学科の「4つのポリシー」が、本学の「使命・目的」「建学の精神」「教育の理念」「教育目標」及び全学の「4つのポリシー」に沿ったものになっているかについて確認し、必要な修正を行う。</p> <p>(2) 教育内容・成績評価の確認 教育内容や科目設定が、学科の教育方針に沿い、国家試験をはじめ資格試験に対応しているか、科目担当者、時間数、開講時期と順序などが適切か、また、GPAを基にして科目間の成績評価基準の平準化が適切になされているかを確認し、必要な修正を行う。</p> <p>(3) シラバスと授業実施状況の管理と徹底 各科目のシラバスが、学科の専門教育方針を満たすものになっているか（シラバスチェック）、またシラバスチェックがきちんとできているか、授業はシラバス通り行われているか、について確認する。また、学生による授業評価結果が授業改善に反映し、生かされているかを検証する。</p>

【自己評価 4-3】 自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

・本学では自己点検・評価を毎年実施しており、学習環境の整備に努めている。

・令和5(2023)年3月14日付けで、「公益財団法人日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合している」と認定された。認定期間は2022(令和4)年4月1日から2029(令和11)年3月31日までの7年間である。

・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構による教育評価を受け、リハビリテーション教育に必要な施設基準およびカリキュラムを提供、実施できる養成施設と認められている。認定期間は、2021年4月1日から2026年3月31日までの4年間である。